

平成26年度 第2回川崎市教育改革推進協議会（摘録）

日 時 : 平成26年11月5日（水）18:30～20:30

場 所 : 教育文化会館3階 第5会議室

出席者 : 小松委員、田中委員、大下委員、杉村委員、松本委員、伊藤民子委員、宮津委員、
巴委員、門倉委員

（事務局）渡邊教育長、原田総務部長、小田嶋教育改革推進担当部長、丹野教育環境整備推進室長、
高梨職員部長、芹澤学校教育部長、望月中学校給食推進室長、渡部生涯学習部長、
江間総合教育センター所長、五十嵐生涯学習推進課長、小林文化財課長、野本企画課長、
岡野企画課担当課長ほか

欠席者 : 高木委員、伊藤好子委員、齊藤委員、山崎委員、

傍聴者 : なし

司 会 : 野本企画課長

〔配布資料〕

資料1 次期「かわさき教育プラン第1期実施計画 素案」（案）

資料2 次期「かわさき教育プラン第1期実施計画」策定スケジュール

資料3 平成26年度第1回川崎市教育改革推進協議会 学校教育専門部会の摘録

資料4 平成26年度第1回川崎市教育改革推進協議会 社会教育専門部会の摘録

参考資料1 川崎市教育改革推進協議会設置及び運営要綱

参考資料2 川崎市教育改革推進協議会名簿

〔次第〕

1 開会

2 教育委員会あいさつ（教育長）

（協議題）

3 次期「かわさき教育プラン第1期実施計画 素案」（案）について

（総論及び社会教育分野を中心に）

資料1

（報告）

4 次期「かわさき教育プラン第1期実施計画」策定スケジュール

資料2

協議題 次期「かわさき教育プラン第1期実施計画 素案」（案）について

（総論及び社会教育分野を中心に）

（企画課長説明）

総論について

委員 ・実施計画ごとに、特色はあるのか。

事務局 ・総合計画の実施計画と整合をとりながら、検討していく予定。

委員 ・市長部局とはどのような調整を行っているのか。

- 事務局 ・政策調整の場であるレビューにおける協議や関係局への情報提供など、調整を行っている。
- 委員 ・教育再生実行会議などの国の動きについては、どうか。
- 事務局 ・例えば英語力強化については、ALTの増員の必要性など認識しているところである。国の流れに対応できるよう施策を打ち出していきたい。

(生涯学習部長説明)

「基本政策Ⅵ 家庭・地域の教育力を高める」について

「基本政策Ⅶ いきいきと学び、活動するための環境づくり」について

- 委員 ・寺子屋の指標について、学力向上に関することをとりあげているが、例えば、友達や地域の知り合いが増えたなどの人間形成に関する指標も入れられるとよい。
- ・子どもと地域の関わりがわかるような、子どもの地域の行事への参加状況など、子どもに焦点を当てた指標があるとよい。
- ・家庭については、親子で過ごす時間などの指標があれば、家庭の教育力にも関係した指標となるのでは。
- 事務局 ・寺子屋事業で行うアンケート項目を工夫していきたい。
- 委員 ・基本政策Ⅵの政策目標に「子どもが地域に支えられながら」とあるが、ここでいう子どもの対象年齢層はどうとらえているのか。例えば、ニートと呼ばれる若年無業者の年齢層も入っているのか。学校に通っている子どもだけのようにとれるが、それでは少し薄いのでは。
- 委員 ・生涯学習は乳幼児からお年寄りまで対象となっている。川崎は大学生が多いまちでもある。「青少年による犯罪」、「子どもから大人まで」とさらっと書いているが、どんな年齢層でも、川崎に住んで、学んで成長する、そういう指標を表せるとよい。誰が読んでも、自分も含まれていると感じられる書き方が必要。
- 委員 ・若者、ニート、フリーター、大学生などが含まれる箇所は、例えば「子ども・若者」といった表現を検討してほしい。
- 委員 ・基本政策Ⅵの政策目標に「子どもが地域に支えられながら夢や希望を持って」とあるが、子どもは子どもの役割を持って地域の一員として存在していると思うので、例えば「子どもが地域の一員として」といった書き方もできるのではないかと。
- ・指標でも子どもが地域で役割を持ってチャレンジすることを表す指標をつくれるとよい。
- 委員 ・基本政策Ⅶの政策目標に、「自ら課題を見つけ」と明確にしているのはとても良い。
- 委員 ・社会教育振興事業の説明で、地域の教育力の向上と書かれているが、まちづくり力や市民力の向上という地域づくりそのものを推進する力も、地域の教育力にプラスして必要ではないかと。
- 委員 ・大人の育ちや子どもへの支援を通して大人も育つといったことを入れるとよい。基本政策ⅥとⅦはつながっていることを意識してほしい。
- 委員 ・地域教育会議は、認知度がまだまだ低く、担い手も不足している。地域が子育てに責任をもつことが必要である。
- 委員 ・NPOで学校施設開放のモデル事業に取り組んでいるが、学校施設は新たな地域のコミュニティの場として有効なのでぜひ進めてほしい。
- 委員 ・スポーツについては、どこに書かれているのか。
- 事務局 ・スポーツについては、市長部局で行っており、本計画の対象となっていない。
- 委員 ・大人の育ちという文言があまり入っていない。基本政策Ⅵの政策目標に子どもが豊かに

育つだけでなく、「多世代の学びあいを通じて大人も育つ環境づくり」といったことを入れてはどうか。

- 委員 ・プランの基本目標の共生・協働といったことは、学びあいも入るので、基本政策VI、VIIでももっと意識すると良い。
- 委員 ・地域の子どもを育てることが地域の教育力と思われがちだが、地域の大人を育てる教育力という面もある。そういう要素を入れて、コミュニティの一員として大人も育つということに触れてもらいたい。
- 委員 ・基本政策VIのリード文と政策目標にも、子どもも大人も「学びあい」「育ちあい」という視点を入れていただきたい。
- 委員 ・社会教育振興事業の取組に書かれている「現代的課題対応学習」とはどのようなことか。
- 委員 ・福祉や環境など現代の社会が抱える課題についての学習のこと。
- 事務局 ・子どもたちに地域への参加をうながすような取組ができないかと考えているが何か考えられることはないか。
- 委員 ・寺子屋はそのような取組の一つだろう。
- 委員 ・寺子屋の体験学習では、子ども、40代の親、60歳以上のシニアといったように3世代で手作り遊びを行った。手作り遊びの伝承にもなり、世代間交流ができてきている。
- 委員 ・大人と子ども、教える人と教えられる人、と分けてしまわないで、その中間にある、中学生高校生、大学生や20代がもっと地域に参加してくると、全体がもっと活性化していく。

(生涯学習部長説明)

「基本政策Ⅷ 文化財の保護活用と魅力ある博物館づくり」について

- 委員 ・先日、聾学校の子どもたちや卒業生たちとかわさき宙と緑の科学館に行った際に、プラネタリウムで字幕解説をしてくれ、とてもありがたかった。これからもユニバーサルな取組を進めてほしい。
- 委員 ・博物館は学校教育や地域教育会議、各種団体とは連携をしているのか。
- 委員 ・科学館は出張もしてくれる。
- 委員 ・市内にある学びの場所を教育委員会がつなぎ役になってアピールしていくことはできないか。
- 委員 ・生田全体の教育、文化、郷土史も含めたマップなど、活用を推進するものはできないのか。
- 事務局 ・生田緑地の横断的な指定管理の中で工夫できると思う。
- 事務局 ・各区でつくっている区のマップ、シティセールス、観光などアピールを今後も工夫していく必要がある。
- 委員 ・博物館のバリアフリーはどのようになっているか。
- 事務局 ・科学館はリニューアルした際にバリアフリー化している。民家園はトイレなどはバリアフリー対応している。

その他

- 委員 ・子どもと地域の交流については、学校支援センターを活用して地域の人を学校に招く取組などしていると思うので、次回の学校教育分野でも、引き続き考えていきたい。
- 委員 ・今後の作業だと思うが、語句説明もわかりやすくつくってほしい。
- 委員 ・総合計画についても子どもの総合的な育ちについて載せるよう働きかけてほしい。

報告 次期「かわさき教育プラン第1期実施計画」策定スケジュール

(企画課長説明)

- 委員 ・本日の意見は、次回第3回協議会の資料で反映されるのか。また、次回の意見はどうなるのか。
- 事務局 ・本日いただいた意見については、できる限り次回第3回の協議会の資料に反映させていく。また次回の意見については、適宜、委員の皆様にご提供していく予定。